



2020年3月10日

各 位

会 社 名 株式会社フォーバル
代表者名 代表取締役社長 中島 將典
(コード番号：8275 東証第一部)
問合せ先 常務取締役 加藤 康二
電話 03-3498-1541

特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年3月期連結会計年度において特別損失を計上するとともに、2019年5月15日に公表しました通期連結業績予想を下記のとおり修正することを本日開催の取締役会において決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

本日、当社の連結子会社フォーバルテレコムが公表しました「特別損失の計上、2020年3月期通期業績予想の修正及び通期個別業績予想の前期実績値との差異に関するお知らせ」に記載のとおり、フォーバルテレコムの取引先であるあくびコミュニケーションズ株式会社及びその関連会社である株式会社カステラに対する債権につき取立不能又は取立遅延のおそれに関して、貸倒引当金繰入額2,367百万円の特別損失の計上をすることといたしました。

フォーバルテレコムの開示資料「特別損失の内容及び今後の当社の業績への影響について」にもあるように今回の損失額の大部分を占める未収入金は過去に支払った「新規開通手数料」を約定により求償するものであり、短期的に事業資金として見込んでいたものではありません。

このためフォーバルテレコムの今後の事業資金および配当金等のお支払いには支障がないと考えております。また、親会社であるフォーバルは十分な現預金等を有しており、この点でもフォーバルテレコムの資金面に関しては問題ないと考えております。

2. 当期の連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
					円 銭
前回予想（A）	50,000	3,300	3,400	2,150	85.66
今回修正（B）	50,000	3,300	3,400	1,000	39.79
増減額（B－A）	－	－	－	△1,150	
増減率	－	－	－	△53.5	
（ご参考）前期実績	57,520	3,221	3,308	2,064	82.30

3. 修正の理由

「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり、当社の連結子会社フォーバルテレコムが貸倒引当金繰入額 2,367 百万円の特別損失を計上することに伴い、法人税等、非支配株主に帰属する当期純利益を見直した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、1,000 百万円となる見込みです。

なお、今回連結売上高、連結営業利益、連結経常利益は従来予想のまま据え置きます。

第3四半期までの連結業績は順調に推移しておりフォーバルテレコムにおいても当該項目に関しては当初予想を上回るとの修正となっております。その一方で特にフォーバルビジネスグループ・総合環境コンサルティングビジネスグループにおいて今般の新型コロナウイルスによる販売商品の調達の可否、お客様への訪問可否を含めた営業活動への影響について慎重に見通す必要があるため当初の予想を据え置いております。

4. 2020年3月期配当予想について

期末配当につきましては、公表しております1株当たり26円の配当に変更はございません。

5. 子会社フォーバルテレコムの業績予想の修正について

本日、当社の連結子会社であるフォーバルテレコム（コード：9445 東証第二部）が2019年5月15日に公表した業績予想の修正を別添資料のとおり行いました。

（添付）株式会社フォーバルテレコム開示資料

「特別損失の計上、2020年3月期通期業績予想の修正及び通期個別業績予想の前期実績値との差異に関するお知らせ」

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上

別 添



2020年3月10日

各 位

会 社 名 株式会社フォーバルテレコム
代 表 者 代表取締役社長 谷井 剛
(コード: 9445 東証第2部)
問合せ先 取締役 山本 忠幸
電話番号 03-3233-1301

特別損失の計上、2020年3月期通期業績予想の修正及び 通期個別業績予想の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の個別決算において、下記のとおり特別損失を計上することといたしましたので、お知らせいたします。

また、2019年5月15日に公表した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたします。加えて、個別業績予想につきましては開示をしておりましたが、前期実績値との対比においてその差異が適時開示の基準に達する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社は、2020年3月6日付けで開示しました「債権の取立不能または取立遅延のおそれに関するお知らせ」のあくびコミュニケーションズ株式会社及び同社関連会社である株式会社カステラに対する債権の取立不能額を見積り、貸倒引当金繰入額23億67百万円の特別損失を計上いたします。詳細につきましては、別紙の「特別損失の内容及び今後の当社の業績への影響について」を参照してください。

2. 業績予想の修正について

(1) 2020年3月期通期連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,000	900	840	590	35.34
今回修正予想 (B)	21,404	1,090	1,017	△1,005	△60.20
増減額 (B-A)	1,404	190	177	△1,595	
増減率 (%)	7.0	21.1	21.1	—	
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	18,347	888	800	589	35.33

(2) 2020年3月期通期個別業績予想と前期実績値との差異(2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A)	13,201	643	564	435	26.10
当期予想(B)	16,335	988	922	△1,023	△61.28
増減額(B-A)	3,133	344	357	△1,458	
増減率(%)	23.7	53.7	63.2	—	

(3) 修正の理由

売上高、営業利益及び経常利益の修正理由については、「IP & Mobile ソリューション事業」の個人向けインターネットサービス、モバイルサービス等再卸の契約獲得が順調に伸びたことによりますが、上記1「特別損失の計上について」に記載の通り、あくびコミュニケーションズ株式会社及び同社関連会社である株式会社カステラに対する売掛金及び未収入金に対して貸倒引当金繰入額23億67百万円の特別損失と同損失に対する繰延税金資産7億24百万円を計上することから、親会社株主に帰属する当期純利益及び当期純利益が大幅に下回る見込みであります。

3. (参考) 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2019年3月期	—	7円00銭	—	10円00銭	17円00銭
2020年3月期	—	7円00銭	—		
2020年3月期(予想)				10円00銭	17円00銭

(注) 2019年5月15日に公表した2020年3月期の配当予想の修正はありません。

以 上

別紙

特別損失の内容及び今後の当社の業績への影響について

2020年3月10日付けにて、あくびコミュニケーションズ株式会社（以下、「あくび社」という）及び株式会社カステラ（以下、「カステラ社」という）の破産に伴う特別損失を計上する旨の開示を行いました。

同2社との取引内容及びそれに基づく損失の発生内容をご説明致します。合わせて、当該損失発生事由が今後の当社の事業展開に与える影響につき現時点における当社の見解を記します。

1. あくび社及びカステラ社との取引の内容について

あくび社及びカステラ社と当社の取引内容は、「インターネット接続サービス（以下、「ISP サービス」という）」の卸取引です。当社が提供するISPサービスを用いて、同2社が、「AKUBI ヒカリ」「アクセス光」等のサービス名称にて同2社の顧客に提供しておりました。

ISPサービスを利用する場合に必要となる「接続ID（お客様個々に固有のID）」を当社が発行します。あくび社及びカステラ社は当該接続IDをお客様に通知し、お客様が接続IDをパソコンなどに設定することでサービスが提供されておりました。

なお、当社は接続IDを同2社へ発行・管理することを主たる役割としており、お客様との利用契約の締結、利用代金の請求・回収などISPサービスのお客様への提供主体は同2社が専らに担う契約となっておりました。

取引のフローにつきましては以下の3つに分類されます。

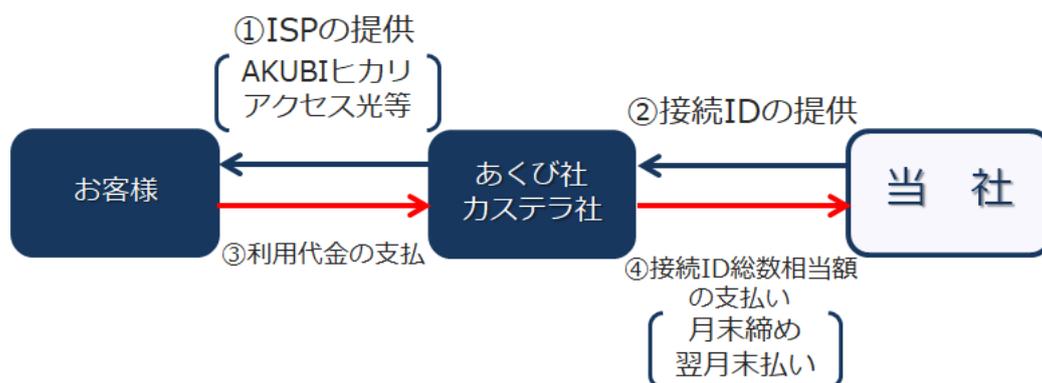
【1-A：月次利用代金のフロー】

あくび社及びカステラ社が「AKUBI ヒカリ」「アクセス光」等の利用代金を個々のお客様から回収します。

当社は、同 2 社向けに登録された接続 ID の総数を月末締めでカウントし、請求単価を乗じた金額を請求し、翌月末日に受領しておりました。

なお、接続 ID 総数は、本年 2 月時点において 118 千件となっております。

<図 1：サービス提供の流れ>

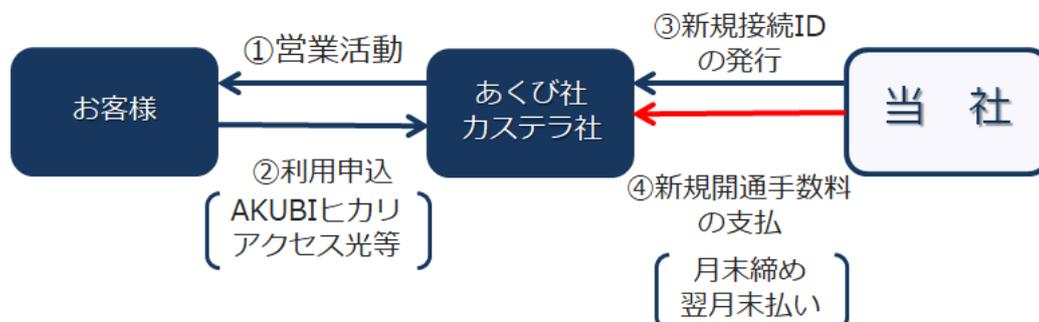


【1-B：新規開通手数料のフロー】

あくび社及びカステラ社が、営業活動によりお客様の利用契約を頂戴し、当社に新規の ISP サービスの利用を申し出た場合には、当社は新たな接続 ID を発行すると共に、「新規開通手数料」を支払っておりました。

当月の新規発行接続 ID 数を月末締めでカウントし、手数料単価を乗じた総額を翌月末日に当社が支払っておりました。

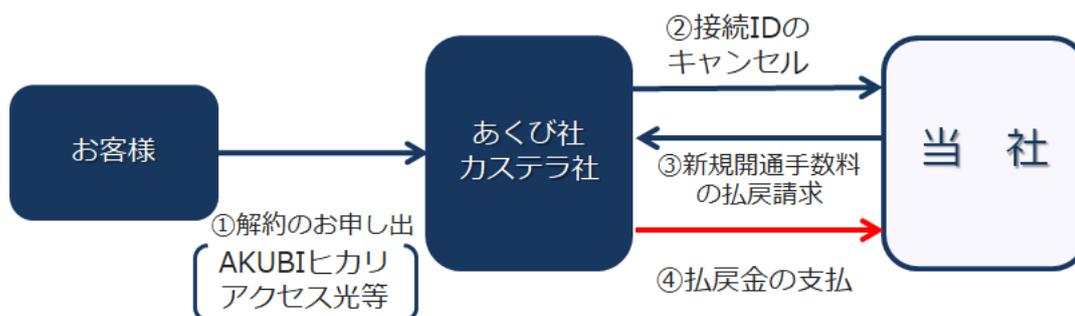
<図 2：新規開通手数料の流れ>



【1-C：新規開通手数料の払戻のフロー】

あくび社及びカステラ社が、お客様の解約申し出に基づいて接続 ID のキャンセル（＝利用停止）を当社に対して行う場合、当該接続 ID の利用期間が一定期間内であれば、前述の「新規開通手数料」の全額または一部を当社へ払い戻す契約となっておりました。

<図 3：新規開通手数料の払戻>



2. 今回の損失の内容について

あくび社及びカステラ社の破産に伴う取立不能債権は以下の2つに分類されます。

【2-A：売掛金】

前述【1-A】記載の 118 千件の接続 ID に関する月次利用代金三か月分の回収見通しが立っておりません。よって、その総額 588 百万円を損失として計上するものです。

【2-B：未収入金】

同 2 社の破産により 118 千件の接続 ID が利用停止となりました。これに伴いまして、前述【1-C】に記載された「新規開通手数料の払戻」が発生します。同 2 社合わせて総額 1,981 百万円となりますが、この回収見通しが立たないため未収入金の損失として計上します。

3. 資金繰りへの影響について

あくび社及びカステラ社との取引における資金の支払いと受領とは、破産以前の取引においては、以下の通りとなっております。



今年度における上記の差額(=受領-支払)は、4月～11月の8か月間実績(受領も支払いも完了しているもの)で月平均24百万円の受領となっております。これは、当連結グループの保有する現預金(2019年12月実績1,126百万円)と比べて軽微であり、当面の事業運営に資金面において大きな支障をきたすものではないと認識しております。

なお、今回の損失の中で1,981百万円の未収入金(前述の【2-B】)に関するものにつきましては、過去に支払った新規開通手数料を約定に則り求償するものであり、当面の事業資金として見込んでいたものではありません。

したがって、当社の今後の事業資金及び配当金等の支払いには支障が無いと考えております。

4. 今後の業績への影響について

2020年3月期の業績見直しにおきましては、あくび社及びカステラ社が2020年2月28日に破産手続きに入ったため、2019年4月から2020年2月までの11か月間につき、同2社との取引により生じた収益を計上しております。

あくび社及びカステラ社による取引を通じた収益は、同11か月において、月次平均実績として以下の通りとなっております。

- 月次売上高平均：149百万円
- 月次事業利益平均：33百万円

注：事業利益=売上高-ISP仕入原価-新規開通手数料-その他販促費

同2社の破産に伴い上記事業の収益は、2020年4月以降の当社事業から消滅することとなります。その結果、2021年3月期における上記の影響額は年換算で400百万円前後の経常利益の減少要因になるものと現段階においては推定しております。

したがって、2020年3月期における当社の予想連結経常利益1,017百万円から400百万円前後の減益要因を加味して、今後の業績計画を見直し、2021年3月期の業績予想として改めて開示致します。

以上